







大浦 周	近現代美術	
おおうら いたる	表現主義、ドイツ近現代美術	2013年から2021年まで近代美術館に勤務し、主に現代美術の展覧会を企画しました。これまで担当した主な企画展は「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」(2018年)、「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」(2020年)、「ボイス+パレルモ」(2021年)など。今年度は本庁の文化資源課にいます。
		


<p>大越 久子 おおし ひさこ</p>	<p>近現代美術</p>	<p>埼玉県立近代美術館の開館当初から学芸員を務め現在に至ります。「ニッポンの風刺」、「呼吸する風景」、「椅子のデザイン」、「ひとすじの道－高橋久雄」、「小村雪岱とその時代」など、担当した企画展は近代から現代まで多ジャンルにわたり、美術に軸足を置いた多様な表現行為に関心をもっています。現在は教育・広報担当チームに所属し、企画展や美術館広報に携わっています。著書に『小村雪岱－物語る意匠－』。</p>
	<p>小村雪岱と同時代の文化</p>	


菊地真央	近現代美術	近代美術館に勤めて5年目になります。常設展・収蔵品担当を経て、今年度より企画展担当として来年度以降の展覧会の準備をしています。また、今年度は奥原晴湖や菊沢武江の紹介展示をMOMASコレクションで行う予定です。
きくちまお		
	日本の近代美術	

五味 良子	近現代美術史	
ごみ りょうこ	視覚文化交流史	現在は常設展・収蔵品担当に在籍しています。企画展ではこれまでにキネティック・アート(2015)、日本におけるキュビズム(2016)、版画の景色(2017)、浦沢直樹展(2018)、美男におわす(2021)などに携わりました。
		


<p>佐伯 綾希 さえき あやき</p>	<p>近現代美術</p>	
	<p>イタリアの近代美術</p>	<p>2020年から近代美術館で勤務し、企画展担当に所属しています。これまでに携わった企画展は「コレクション4つの水紋」(2021)、「美男におわす」(2021)です。本年度は岩槻出身の画家・田中保(1886-1941)の回顧展「田中保とその時代」を担当します。 イタリア未来派を中心に研究してきた経験を活かし、MOMASコレクションでは「色彩と軌跡—ジャコモ・バッラ《進行する線》を起点に」(2021)を実施しました。今年のMOMASコレクションでは、「デザインで語るユートピア—1960-70年代イタリアから」を担当します。</p>


佐原 しおり	近現代美術	
さはら しおり		<p>2019年度より近代美術館学芸員。現在は常設展・収蔵品担当に所属し、MOMASコレクションの企画実施や収蔵作品の管理を行っています。主な企画に、「アーティスト・プロジェクト#2.04 トモシ 有酸素ナンパ」(2019年)、「写真という欲望」(2020年)、「特集:中野四郎」(2021年)などがあります。今年度は企画展「戸谷成雄」を担当します。</p>
	日本近現代美術	

<p>鳴原 悠</p>	<p>近現代美術</p>	<p>2015年より近代美術館に勤務し、常設展・収蔵品担当を経て、2019年より企画展担当に所属しています。大正から昭和戦前期を中心とした美術やデザイン、博物館の歴史や制度などに関心があります。昨年度は「扉は開いているか—美術館とコレクション 1982-2022」を担当しました。今年度は、当館のコレクションを現代作家の作品などとともに新しい視点から紹介する展覧会「桃源郷通行許可証」を担当しています。</p>
<p>しぎはら はるか</p>	<p>日本近現代美術</p>	
		

平野 到	近現代美術	
ひらの いたる	日本の戦後美術 近現代のドイツ美術	<p>現在は常設展・収蔵品管理を担当しながら、学芸業務を総括する仕事をしています。20世紀の国内外の先鋭的な美術動向、芸術運動に関心があり、「1970年—物質と知覚—もの派と根源を問う作家たち」(1995)、「イスラエル美術の現在」(2001)、「長澤英俊展—オーロラの向かう所」(2009)、「浮遊するデザイナー—倉俣史朗とともに」(2013)、「日本におけるキュビズム」(2016-17)、「ディエゴ・リベラの時代」(2017)、「インポッシブル・アーキテクチャー」(2019)などの企画展を担当しました。また、昨年度は、うらわ美術館と同時開催した企画展「大・タイガー立石展—世界を描きつくせ！」にも携わりました。</p> <p>新たなものの見方をもたらし、飼いならされた思考に風穴を開けてくれるような作品との出会いを、何よりも大切にしたいと思っています。</p>
		



<p>吉岡 知子 よしおか ともこ</p>	<p>近現代美術</p>	<p>2008年より近代美術館に勤務し、2020年より教育局文化資源課勤務を経て、今年度からに近代美術館企画展担当に所属しています。          主な関心領域は日本近代美術で、これまでに企画展「private, privateーわたしをひらくコレクション」(2015年、「瑛九と須田剋太」のセクションを担当)、「原田直次郎展」(2016年)、「駒井哲郎 夢の散策者」(2017年)、「森田恒友展」(2020年)などを担当しました。          2年ぶりに美術館勤務となり、作品や展示に携われることの喜びを日々感じています。</p>
	<p>日本近代美術</p>	

佐藤 あゆか	現代美術	
さとう あゆか		
	戦後のアメリカ美術	<p>2022年度より近代美術館に勤務することとなりました。常設展・収蔵品担当として、コレクションの管理や作品貸出の手続きなどを行っています。今年度は、MOMASコレクション第2期の「さいきんのたまもの」と第3期の「セレクション」を担当します。展示やイベントの企画・実施を通して、より多くの人に現代美術の面白さを伝えていきたいと思っています。</p>